

2 P-39(P) 老人ホームにおける手芸などの「手仕事」を楽しむ活動について

○川畑昌子* 豊田美佐子* 雨宮邦子** 斉藤秀子*³

(*大妻女大(非) **実践女短大(非) *³山梨県立女短大)

【目的】高齢者を対象とした多くの施設では、レクリエーション活動の一端として手芸を中心とする「手仕事」を楽しむ活動が、創造的、文化的活動として行われている。このような活動は、高齢者の生活の質(QOL)の向上を目指す上で、また作業療法としても意義深いとされている。本研究は、老人ホームにおける、手芸などの「手仕事」を楽しむ活動の現状について調査し、今後の課題について検討しようとするものである。

【方法】関東地方の養護老人ホーム、軽費老人ホーム、計 206 施設に対して、1998 年 12 月初旬に郵送調査法によるアンケート調査を実施した。調査票の記入は、施設の職員、一部について手芸などのレクリエーション活動の指導者各 1 名で、回収率は 61.7%であった。調査の内容は(1)施設の概要、(2)手芸を中心とした文化的活動の現状、(3)指導の現状と指導者の意識についてである。

【結果】施設の入居者は70代、80代の女子の比率が高かった。施設の職員の場合、「手仕事」を楽しむ活動は作業療法、話題作り、生活の楽しみとなるという回答とともに、時間がかかる、関心に個人差がある、専門家が不足しているという回答が多かった。指導者は全員女子で、平均年齢は 51.8 才、施設の職員が多く、「手仕事」が好きで、多くの人に楽しんでほしい、手芸の技術は独学で身につけたという回答が多かった。